



辰建の材木置き場にある木曾檜の一枚板。
木曾檜は木目のきめが細かく、香りが強く、耐久性、耐水性にも優れた木材です。
伊勢神宮の式年遷宮の御神木としても利用されており、青森ヒバ・秋田杉とならび、日本三大美林とも呼ばれています。
辰建では和室や飲食店のカウンターや造作材などに用いることが多いのですが、
最近では生活様式の変化などで和の空間をつくるのが減ってしまったので、なかなか木曾檜を活かす機会がありません。
本物の木の良さを実感できるとても素敵な木材なので、多くの方に良さを知ってもらえたらと思います。



辰建語り 八巻さんのコト

辰建最年長の大工さん、八巻孝衛やまゐり たけむねについてご紹介。知識・経験が豊富で、辰建では親しみと尊敬の意味を込めて「レジエント」「超人」などと言われたりもする八巻さん。今年で七十四歳とは思えない身のこなし。高い所にもひよいひよいと身軽に移動して手際よく仕事をしています。

性格なのか経験からなのか、気持ちに余裕のある人だと思えます。慌てたり焦ったりしているところを見たことがありません。面倒見もとてもよく、辰建スタッフはもちろん、協力業者さんからも頼られる存在です。そして頭の回転が速い！「こんな風にしたいのだけれど、どうすれば良いのか」という相談を受けると、だいたいこのことは「こうすればいいよ」とすぐに案を出してくれれます。図面だけお客様に伝えることが難しいときには実物大サンプルを廃材ですぐにつくってくれたり、いつも色々な場面で助けられています。すぐにパツとアイデアを出してくれるのは本当にすごいと思います。

現場で一緒に働いている監督や若手大工に八巻さんのことについて聞いてみると、予想以上にすらすらと人柄や尊敬している点について教えてくれました。「信頼できる大工さん」「現場でピリピリすることはなく、いつも現場を明るくしてくれる」「大工工事だけでなく、他の工事についても知識が豊富」などなど、八巻さんについて語る会で

私もたくさん現場でお世話になりました。八巻さんと一緒にお鮎屋さんの工事に携わった際、様々な場面で助けてもらいましたし、意匠についてもとても勉強になりました。竹や瓦を装飾としてのアクセントに加えたり、出入口の庇ひとつにも細かなこだわりを持って造ったり。いたるところに八巻さんのセンスとアイデアが散りばめられ、最初に計画した意匠よりもうんと良いものになりました。知識も経験もない当時の私には屋根材として使用される瓦を内装材として扱うという発想がなかったのですが、八巻さんのアイデアはとても新鮮でした。

技術者としても人生の先輩としても学ぶことが多い大先輩。一緒に仕事をすることで、色々な知識や技術を見て覚えて吸収できたかなと思います。八巻さんは辰建にとって大きな存在です。

(下田)



1. お鮎屋さんの出入口にある竹と瓦の装飾。本物ならではの質感で空間を彩ってくれます。
2. 甘えてはいけないとわかってはいますが、現場に八巻さんがいるととても心強いです。

Office Reform 辰建事務所

ちょこっとリフォーム

辰建事務所の給湯室をリフォームしました。
限られたスペースなので大幅なレイアウト変更はできませんでしたが、今回の工事でスッキリとした明るい空間に変身！主な改修内容は天井・壁・床の仕上材の貼り替えと流し台・収納部分の取り換えです。シンプルではありますが、流し台と収納は既製品ではなく設置個所に合わせて造作して取付けました。

After



Before



Point 1

流しの正面の板は辰建倉庫にあった無垢の板を利用。表面がでこぼこな、なぐり加工を施した板なので、独特の印象でちょっとしたアクセントに！



Point 2

よく触れる部分が汚れていた既存造作木製建具。取り替えはしなかったものの、レバーハンドルを交換したり、表面を塗装で綺麗にすることでだいぶ印象が良くなりました。これは既製品だとできない場合が多いので、造作建具ならではのメンテナンス方法です。

ひとりごと



辰建スタッフは私物にこだわりのある物を使っている人が多い気がします。文房具だったり服飾だったり小物だったり。普段なかなか聞かないけれどその道では有名な職人さんの物だったり、老舗の物だったり。ものづくりをする職業柄なのか、各々「もの」に対してのこだわりが強いように感じます。あくまで私個人の感想ですが。素材に関しては特に、目が鍛えられているということも理由の一つかもしれません。私自身も最近は、シンプルで手になじむ素材の小物を好むようになりました。時が経つにつれて表情を変えてくれる革製品のキーケースやコインケースなんかは、休日に自分でちまちまとお手入れをすることも楽しかったりします。お手入れというよりは育てているという感覚に近いかもしれません。

社内では情報を集めてみたら、「こだわりの逸品」というタイトルで小冊子でも作れそうです・・・なんて。
(下田)



- A, B リビング (2F)
- C キッチン (2F)
- D 寝室 (2F)
- E 洋室・納戸 (1F)
- F 玄関ホール (1F)
- G バルコニー (2F)



新小岩の家

概要

場所：東京都葛飾区
 主要用途：専用住宅
 工法：木造2階建（在来）
 敷地面積：99.43㎡
 延床面積：102.55㎡

外部仕上げ

屋根：ガルバリウム鋼板
 外壁：ジョリパット
 土間：豆砂利洗い出し

内部仕上げ

天井：クロス貼り
 壁：クロス貼り、一部タイル貼り
 床：杉無垢フローリング
 コルクタイル（キッチン）
 CFシート（トイレ・洗面脱衣室）



二色使いの塗り壁が印象的な二階建てのお家が完成しました。

洗い出しの玄関ポーチを歩き、木が張られた玄関ドアを開けると、広々とした玄関ホールが迎えてくれます。二階へと続く階段の一段目が、靴を履いたり脱いだりする際のベンチ代わりにもなり便利。

水廻り以外の床は杉の無垢フローリングを採用しました。杉のフローリングはやわらかな質感が心地よく、温もりを感じられます。

一階は洋室と、キッチン以外の水廻りがあり、将来的に階段の上り下りが辛くなったときには、キッチンを一階に設置することで一階のみで生活することもできます。

構造上の都合で、梁が大きく、一階の洋室に出て来てしまうということで、「せつかならもう一本もあらわしにしてデザインにしまおう」となり、一階の洋室の天井は梁があらわしになっています。

建て替え前のお家はリビングが一階にあり、人目が気になったというお施主様の体験をもとに、リビングは二階に配置。素敵なカップ＆ソーサーやワイングラスをリビングから見ても楽しむことができるカップボードも造り付けました。

自然光が差し込む明るいリビングは、あらわしの梁や無垢のフローリングのあたたかみも感じられ、居心地の良い空間になりました。